

教授 沖 裕貴 OKI HIROTAKA

アクティブ・ラーニングの場は  
掲示板にある

## 意見を発表・傾聴・まとめる学び

「立命館小学校の実績について最も優れていると思うことは何ですか。また、最も問題があると思うことは何ですか。理由も含めて投稿してください」。

上記は沖先生が担当する「現代の教育」で、manabaの掲示板に掲載されたメッセージからの引用です。学生はまず、掲示板に自ら意見を投稿。次に他学生の投稿をすべて閲覧した上で小レポートを完成させます。特徴的なのは、自らの意見を

1点、他人の発想から良いと思ったものを2点、計3点レポートにまとめること。

## 毎授業、未知の発想に触れる

manaba導入前に授業で課していた小レポートは、自分自身の意見のみをまとめるというものでした。大規模授業では人の意見に触れる機会自体が少なく、レポート内容も独りよがりになりがちだったといいます。次回の授業で冒頭に主だった意見を紹介してはいたものの、当然全てというわ

けにはいきません。

「掲示板で人の意見を全部見られるということが、学生にインパクトを与えたようです。予想以上の効果でした」。

最終授業の感想レポートでも「自分だけで考えては元々の意見から変わることもありませんでした」「1つの問題に対する様々な声を自分の理解のために役立てることができました」といった声が多く寄せられたといいます。

## Web活用とIDによる

## ログインの意義

ゲストスピーカーを招いた授業では、質疑応答に入った途端、スマートフォンや携帯電話から73件もの質問が。プロジェクターに映された質問内容に対し、リアルタイムで回答が成されました。以前は授業内で質問時間を設けても、なかなか手が挙がらなかったとのこと。双方向の授業を進める上で、Web上からアクセスできることの意義は大きいといいます。

個人のIDでログインするため、誹謗中傷の心配も少ないのだとか。個人情報の問題についても、「自分の意見を1つ提示し、後は他人の意見を取り込むという課題なので、個人名が特定されたからといって、何もかもさらけ出すわけではありません。名前の公開が前提なので、学生自身が気を付けて書くという側面もあるのかもしれない」

## 投稿数を飛躍的に伸ばす

## アプローチ

掲示板への投稿の多さには、沖先生の工夫も影響しています。「何か質問があればmanabaに書き込んでください」とただでは反応が希薄だったため、アプローチを変更。課題を課して意見を募るスタイルに行き着いたそうです。

成績評価方法として平常点を50%取り



1 現代の教育の掲示板のスレッド画面です。教員は意見を問う課題を1コメント目に出題し、学生はその下にコメントとして意見を書き込み提出します。掲示板で課題を提出するため、履修生全員が閲覧できるようになっています。

2 現代の教育でのコースニュース画面です。コースニュースで試験レポートの論題とともに、採点基準が記載されているルーブリックを履修生にあらかじめ公開しています。

込み、うち小レポートが8回×5点満点で計40点、掲示板への投稿が1回1点上限10点と定めたことも、投稿数が伸びた理由。小レポート課題が無い回の掲示板にも、毎回多数の投稿がありました。

これらの取り組みで学生の授業外学習時間が増えるなど、手応えが感じられた反面、年度ごとの授業アンケートで評価される目標達成度や成績には、さして変化が見られなかったことも話してくださいました。

社会が求める  
汎用的能力を育成

そこで2014年度の最終授業には、考える力や探究心、意見をまとめて表現する力、聞く力など、ジェネリックスキルに重点を

置いた独自アンケートを実施。アクティブ・ラーニングによって汎用的な能力がどれだけ高まったか測ったところ、明確に成果が表れてきました。

「大規模授業など、インタラクティブを取りにくい状況でアクティブ・ラーニングを行うにあたり、掲示板は欠かせません」と語る沖先生。来期は100人前後の授業でディープラーニングにmanabaを活用する予定だそうです。

「意見発表や議論をするだけで終わらせず、一度自分に立ち返って省察することが重要。アクティブ・ラーニングで何を身に付けたか、最後に掲示板に投稿するようにすれば、学んだことが深いところまで落ちて行くと思うんです」。

## 授業規模

大規模

中規模

小規模

## 授業形態

講義

演習・実習

語学

## manaba機能

小テスト

アンケート

レポート

プロジェクト

成績(採点結果)

掲示板

コンテンツ

コースニュース

出席